Jun
2025

藍サポ通信

— 明日に向かって —

vol.56

表紙：春のローズウィーク

タイトル
・感動の音色！『管弦楽団まごころ』コンサート
・新しい仲間を迎えました！
・販売活動　あかる姫まつり
・くれよんに吹く新しい風
・特集　卒業生の今

2025年6月度　季刊誌

感動の音色！

『管弦楽団まごころ』コンサート

先日、生活介護藍（本館）のフロアにて、お待ちかねの『管弦楽団まごころ』さんによるコンサートが開催されました。総勢15名の楽団員が奏でる、心温まる音色がフロアいっぱいに響き渡り、大きな感動を呼びました。

今回のコンサートでは、「ヴァイオリン」「チェロ」「ヴィオラ」「ホルン」「フルート」「ピアノ」など、様々な楽器が織りなすハーモニーは、まさにプロフェッショナルそのもの。とても贅沢な時間を過ごす事が出来ました。

特に盛り上がりを見せたのは、大人気の『夢をかなえてドラえもん』そして、社会現象にもなった『パプリカ』さらにユニークな響きが楽しい『ぽよよん行進曲』でした。

これらの曲が演奏されると、美しい音色に合わせて体を揺らす方、楽しそうに手拍子をする方、歌詞を口ずさみながら一緒に歌う方など思い思いに音楽に浸る姿が見られ、音楽を楽しまれていました。

フロア全体が、温かい一体感と喜びに包まれました。コンサートの終わりには、惜しみない拍手が楽団員に送られ、大盛況のうちに幕を閉じました。音楽の持つ力、そして皆で分かち合う喜びを改めて感じることが出来た、本当に素晴らしい時間となりました。

新しい仲間を迎えました！

この度、私たちの生活介護藍（本館）に新たな仲間であるYさんが加わりました。いつも素敵な笑顔で私たちを和ませてくれるYさん。これから一緒にたくさんの笑顔があふれる日々を過ごしていきましょう。どうぞよろしくお願いします！

販売活動 あかる姫まつり

4月26日平野公園にて「あかる姫まつり」が開催されました。当日は様々なイベントと共にフリーマーケットがあり、生活介護藍（南館）も出店して利用者さん手作りの商品を販売しました。

毎月第3土曜日の13時頃から生活介護藍（南館）の前で行っている販売活動の商品を『あかる姫まつり』で出品しました。商品は祝箸がおなじみですが、最近はレジンのキーホルダーを作ったり、ミシンを使って巾着袋を作ったりもしています。毎月、生活介護藍（南館）の関係者や利用者さんのご家族が来られ、利用者さんの嬉しそうな顔や恥ずかしがる姿が見られていますが、今回は『あかる姫まつり』まで出張です。

店番の利用者さんは、慣れた様子で「いらっしゃいませ！」と元気に声を出していました。お金の受け渡しや袋詰めも頑張っています。お客さんの中には、「生活介護が現在の場所に移転する前に取り組まれていた餅つきイベントに参加しました」という方や、「私も他の事業所に通っているんです」と話しながらブレスレットを購入してくれた方がいらっしゃいました。また、小さな女の子はビーズブレスをみるとディズニーにでてくるキャラクターをイメージされたのか「ラプンツェル！」と言いながらビーズブレス手に取り購入されることもありました。多くの方と接する事が出来て、様々な出会いがあったあかる姫まつりでした。

（あかる姫祭りでの販売の様子）

くれよんに吹く新しい風

今年の3月にくれよんを卒業した児童がいる一方で新たにくれよんに迎え入れた児童もいます。1月ぐらいから徐々に利用を開始され、4月には新しく通ってくれている子どもたちが増え、以前とは違う雰囲気となりました。新たに加わった児童は。新1年生から高校3年生までと、年齢はバラバラですが、学校にもくれよんにも少しずつ慣れてきている様子が伺えます。新1年生のお子さんは、小学校にデイサービスと新しい環境での過ごしが続いていることもあってか眠たい目をこすりながら遊んでいることも・・・。

職員は、子どもたちのパワフルさに押されかけることもありますが、「どんなことが好きかな?」「今日は一緒に遊べるかな?」「みんなと一緒に楽しめたらいいな」と、一人一人のことを考えながら、日々支援に取り組んでいます。声夏休みまで1か月を切りました。今年も一緒に夏を楽しんで過ごせるような企画を色々と考えています。

（新メンバーの児童　右・左奥側）

これからもみんなで一緒に楽しく過ごしていきましょうね。

特集　卒業生の今

ここ数年、くれよんに通っている子どもやご家族が、中学、高校への進路や、高校卒業後の就職先に悩んでいることが増えています。私たち職員からの情報提供だけでは不十分なこともあるのではないかと考え、今回の季刊誌でくれよんを卒業した人にスポットを当てた特集を組んでみることにしました。

第1回目はNさんへのインタビューです。現在Nさんは、介護福祉士として働いています。くれよんには小学校から利用を開始し、小・中・高と地域の学校を選んで高校卒業までをくれよんで過ごしました。その後は、専門学校に進む道を選ばれ、普通自動車の運転免許も取得されています。

Nさんが学生時代にどのようにして進学や就職の道を辿り、その時その時で何を思っていたのかをインタビューしてみました。

Q 小学生当時はどんな子供だった?

A 人間関係でうまくいかないことが多く、友達とトラブルになることが度々あった。例えば、嫌なことを言われて、相手に手を出してしまうことがあった。

Q その時はどうした?

A 母に相談した。母から学校に事情の確認をしてもらい、小6の最後らへんということもあったので、相手と距離を取ることでトラブルに繋がりにくい環境にして過ごした。同じクラス内に相談できる友達もいたので、心強さはあった。

Q くれよんではどう過ごしていた?

A 職員と関わりたいのに、そのタイミングで他の人の対応をしていたりして、「○○しているから待っててね」と言われた時に、構って欲しさや寂しさからその場を離れたりフロア内の隅っこの方に行っていた。また、自分の思い通りに行かないこと

があったり、自分の気持ちを上手く出せない時には、職員の肩を強めに叩いたり大声を出すことで注目を浴びようともしていた。その際、職員は「どうしたの？」と聞いてくれたり、「友達にはしないようにしようね」と優しく言ってくれたり、自分の表情や言動からいつもと違う様子に気付いて声を掛けてくれていた。中学生になると、学校から宿題が出たりして、くれよんに持って行って一人で皆と違うスペースで取り組むことが多かった。

Q Nさんが自分で一人のスペースを選んでいた？

A そう。他の人に邪魔されずに集中して取り組みたかった。あと、他の人のよだれとかも気になったりして、他の人と関わるのが苦手な時期でもあった。出来れば設定保育（皆で遊ぶ時間）にも参加したくないと思ったりと、消極的な部分が目立っていました。中三になる頃には、他の人と関わりやすくなったけど、来所回数は減りました。

Q 来所頻度が減った理由は？

A 友達と過ごしたり、受験勉強に向けて塾に行くこともあり、忙しいけど私生活が充実している時期でした。ちなみに、来所するか休むかの連絡は、他のことに気を取られて忘れることも多く、無断で休んだりして、職員からよく話を受けていました。

Q 中学校生活ではトラブルなく過ごせていた？

A いくつかあったけど、まずは母に相談することが多かった。そこから、母がくれよんの職員に相談をして話を聞いてもらうことがあった。母はよく、学校の先生と話をしてくれていたので、学校と話をする時には、くれよんで話したことも含めて考えながら、話を進めていました。

Q くれよんの職員Aさんに質問ですが、この時期は本人とどんな話をしていましたか？

A （くれよん職員A）Nさんの母からは「学校でこんな出来事があったらしい。またくれよんでも本人から話を聞いてみてほしい。」と話を受けて、タイミングを待ってみるものの、自分から「こういうことがあったから聞いてほしい」と話すことは難しかったように感じる。職員から聞くと、出来事としては簡単に話をするが、詳しい内容まで話すことは難しく、職員が深く聞いていく事で詳細を知ることに繋がっていた。本人から話を聞いていく中で、本人にもきっかけがあるのかどうかを見極めながら、気になることがある場合はしっかり確認をしていた。Nさんの場合は年齢と共に経験を重ねていく事で、折り合いをつけることが出来るようになっていた。

Nさんに限らない話で言えば、しっかりと深い話をするにあたっては、職員が、本人や保護者との関係性を築けているかどうかも深く関係していると思う。本人にとっての生活の主は家庭なので、話したことや本人の様子は家庭に繋ぐようにしていました。

Q 高校受験についてはどうでしたか？

A 高校受験はどこにすればいいか焦っていました。高校をどこにするか決める際、オープンキャンパスに行ったり私立・公立どちらに行くかも決めていました。僕は「家から近くて学力も少し下に落として選びたい」と思い探しました。

あとは、エンパワメント校であることも条件でした。

Q 進路についての相談は誰にした？

A 学校には相談してみても自分が欲しい情報はあまり得られなかったので、親やくれよんに相談していました。相談した時には「本当にそこに行きたいと思っているならいいんじゃない？」と言ってくださり、勉強と面接の練習に励みました。なんとか私立・公立どちらにも合格。家から近い公立に進学することにしました。金銭面的にも公立に受かってホッとしました。

Q 実際に高校に入学してみてどうだった？

A エンパワメント校だったので、学び直しをしたり、勉強をゆっくり進めてくれたりしたので、ゆっくり取り組めた。高校からバイトも始めていきました。

Q バイトは回転寿司のお店で、長続

きしてたよね。

A 高校一年生から専門学校卒業まで合計で5年間続いた。始めたては苦手な事や分からないことも多く、パートの人に何か言われることもあり、心折れる事もあった。そのパートの人とは後々仲良くなれた。

Q 続けることが出来たのはなぜ？

A 母に相談した時に「頑張って続けた方がいいよ」と言われたり、バイト仲間に仲の良い友達が出来たことは大きいと思う。高校卒業後は社会人になる前に専門学校に行こうと思いました。母親が福祉の事をよく話しており「行ってみたら？介護とか」と言われて入学しました。

Q 他にもきっかけになることはあった？

A 伯母が介護の仕事で働いていて、楽しさを教えてくれた事もきっかけの一つ。楽しそうだと思っていたけど、最初はそこまで興味はなく、服に興味があったので卒業後はアパレル関係の仕事に就きたいと思っていました。

入学前は「友達出来るかな」「介護の知識もないのになぁ」と思っていましたが、入学してから友達もできていきました。勉強はそこまでしんどくなかったけど、実習では怒られる事もあって、めっちゃ心が折れそうなくらいしんどかったです。けど、礼儀を教えてもらう場でもありました。

Q 卒業して現在は介護の仕事に就いているけど、転機はあった？

A 二年生になってから最後の実習に行った時に、職員や利用者の方が優しく、「今日の実習ではどんなことがしたい？」と、安心して実習に取り組めるような声掛けをしてもらいました。この施設の職員のようになりたいな、ここで働きたいなと思いました。ここだと自分の個性を生かした働き方ができると感じました。僕は人と関わることが好きで、人を笑顔にさせる仕事に就きたいと思っていたので、すぐ応募しました。

受かるという気持ちで面接に向かい、緊張で手足が震えていましたが、何とか質疑応答も終えて受かりました。一月にあった介護福祉士の資格試験にも合格しました。

とても嬉しかったです。

Q 社会人生活はどう？

A 二年目に入り、仕事の量も増えてきて大変だけど、利用者さんに顔と名前を覚えてもらったり、レクの時間に前に出ただけで笑ってもらえたりして、楽しんで仕事に取り組めている。色んな人がいるなと思いながら日々働いている。

Q 社会人として気を付けている事は？

A 周りの人に流されず、利用者さんには敬意をもって敬語で話すようにしていたり、人に見られているという意識をもって、身だしなみやルールなどに気を付けて行動している。あとは、報連相も大事にしていて、仕事でも私生活でも意識している。

Q 休日はどんな感じ？

A 運転免許があるので、友達とドライブに行って会話を楽しんだり、遠出したりしています。サウナや銭湯巡りもしています。ファッションが好きなので、服を買ったりもしています

Q Nさんから、くれよんに通っているみんなへのメッセージをお願いします。

A 人生一度きりです。自分は勉強できないからと諦めるとかではなく、行動あるのみだと思います。くれよんさんを通して、色々な人との関わりがあってこそ今の自分があると思っているので、本当に感謝です。

質問に丁寧に答えていただきありがとうございました。

今回はNさんへのインタビュー記事でしたが、次号はくれよんが子どもたちの進路についての取り組みを掲載する予定です。

藍サポ通信―明日に向かって―　について

当季刊誌では、利用者様の事業所内や様々な活動でのご様子を公開しています。利用者様のご様子を季刊誌を通じてお伝えすることで、ご家族の安心や福祉サービスの利用を検討されている方々のご参考になれば幸いです。

これらの広報活動を通して私たちの活動について周知を図るとともに、今後も様々な活動を充実・向上させていきたいと考えています。

※当季刊誌に掲載されている写真は、本人又は保護者の同意を得て掲載しています。

編集　一般社団法人 地域生活サポート協会 広報委員会
大阪市平野区平野西 1-7-14 / TEL 06-6777-1159

社員法人　社会福祉法人藍
大阪市平野区平野西 1-7-10 1F / TEL 06-6777-1567

有限会社ひらの
大阪市平野区平野西 1-7-10 2F / TEL 06-6777-1539

安心創造
Create our peace of mind

HP
ai-snet.com

HP
shafukuai.ai-snet.com

HP
yuhirano.ai-snet.com

Instagram
@aisupportnetwork